

---

# スコップ片手に異世界

成分無調整

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スコップ片手に異世界

### 【Nコード】

N1127Z

### 【作者名】

成分無調整

### 【あらすじ】

仕事終わりで、運転中の信号待ち。

気づくとそこは見たことのない世界・・・

いろんな人？種族？と共になぜか建設業的な環境に・・・

よしっ ヘルメットのあご紐しめて、施工管理技師の底じからを・・・

みせてやねるのか？

## 神社掃除

・・・はっつ！・・・目が覚めたら見知らぬ天井が・・・

な、わけないか〜 いつもの部屋の景色だ。(昨日寝る前に読んだ本の影響かな〜)

昨日、お母さんが

「この物語が町の本屋ではやってるんだって」

と買ってきてくれた本はことは違う別の世界「異世界」へ強引に連れて行かれて、想像のつかないような住民たちと交流するお話だったな。

私はベッドからおきだして部屋の窓を開ける。早朝のスッキリとした空気が部屋の中に入り込む・・・んーっつ！と、深呼吸をして

「よしっ！今日も元気出していきますかっ！」

と気合をひとつ入れると、着替えを始めた。

「そろそろ朝ごはんよ〜」

「は〜い！いまいく〜」

着替えが終わり、これから成長するであろうちヨット残念な胸に（おおきくな〜れ〜 おおきくな〜れ〜・・・）と呪文を唱えているとお母さんから声がかかると同時に、朝ごはんのいいにおいがただよってきた。

「今日から当番だよな？食べたらずぐ始めるの？」

朝ごはんを食べているとお母さんが話し始める。

「うん！神社の掃除でしょ？箒と塵取りと・・・何もっていけばいいかな？」

「とりあえずはそれで十分よ。しっかりと掃除するのよ。判らない事があったら私がグラツム爺さんに聞きなさいね」

「はい！」

私は、今年で十六歳になる。初めての神社掃除に順番が回ってきた。今までは、お父さんかお母さんがしてくれていたのだが、今年は私にもできるだろうと、家族会議で決まり、今日が初日だ。

掃除をする神社は、私の住んでる部落から少し離れた小高い丘にあつて、大きな石と小さな石が不規則に並んでいる場所。どういふいわれがあつて、どんな神様が祭られているのか、グラツム爺さんに聞いたけど今ひとつはつきりしなかつた。あのいつも

「フオツフオツフォ」

と、目が見えているのかいないのかわからないほど長い眉がチャームポイント？の最長老爺さん。やさしいしお話が面白いから大好き。

（でも、部落の決まりで毎日掃除してきれいにしなきゃならないんだよね〜）と自分に言い聞かせながら神社に到着。初めての掃除に何故だろうとちょっと気持ちが高ぶってくる。

「よしっ！さっさと、しっかりと掃除を終わらせますか」

ふん！と気合を入れて箒を持つ手に力を込めた。

.....

その日の夕食時に

「初めての神社掃除はどうだった？」

仕事から帰ってきたお父さんが、一緒に夕食を食べていると今日の出来事を聞いてきた。

お母さんもニコニコしながら聞いている。

「たいしたことないよ〜無事に終わったよ？危ないことも無かつたし」モグモグ

「でも、結構広いな、お昼近くまでかかっちゃった」と話すと

「お父さん達も最初の頃はそうだったぞー、慣れるまではかかるだろうなー」

などと懐かしそうに話してくれた。

夜も更けて、寝間着に着替えて寝るまでの間に昨日の続きを読む。

「確か主人公が、雑貨屋で精霊が封印されているスプーンを買いおうとしてたんだよね・・・」

.....

「え〜 呪いのコーヒークップと干渉して精霊が実体化するの〜!?!」

読み進めていると止まらなくなりそうだけど

「明日も掃除があるし、そろそろ寝ようかな」

名残惜しいそうに本を閉じて、この先どんな展開になるのか楽しみにしながらベッドにもぐりこんだ。

目を閉じながら「掃除の仕方、もっと効率よく出来る様にいろいろ試さなくちゃ」等と考えながら眠りについた。

## 神社掃除（後書き）

勢い執筆です。どうなることやら・・・  
マイペースで進行します。

「JJJJJJ」?

・・・!?!? うぶっ・・・???

口に含んだ缶コーヒーを吹き出しそうになった。

確か自分は仕事用に改造したワンボックスの車を運転中で、信号待ちをしていたはず・・・

赤信号につかまり、ため息をつきつつギアをニュートラルに入れて・・・

車のFMラジオから流れるパーソナリティの山田某さんの声を聞きつつ・・・

ホルダーの缶コーヒーに手を伸ばして・・・

ぐいっという口・・・

やって前を見ると・・・

そこは、チョット前とは明らかに違う景色がひろがっていた。

そして、フロントガラスの向こうでは見たことのない白い服を着た女の子(なのかな?)が

箒状の道具を持ったまま、作業中であろう体制で微動だにせずこちらを凝視している。



「さて・さて・さてー！ーここどこおー！？」  
かろうじて口の中のコーヒーを飲み込み、思わず発した第一声である。

一気に心拍数が上がったのを自覚しつつ、現在に至るまでを思い返してみる。

- - - - -

確か、工事現場での作業が終わって、撤収中。

用具やチョットした機械を自分のワンボックスに積み込んで

「この現場も今日で終わりか〜」などと、一月近くの作業内容を振り返りつつ

途中のコンビニで買った缶コーヒー（ベルオー）でひといきいれるかと・・・

「平日の午後なのに車いないなあ〜」などとぼんやり考えつつハンドルを握っていたはず・・・

そう、カーラジオから流れる「山田某のアグリズムがなんちゃら」を聞きながら。

## 着手 1 (前書き)

勢いで書き進めています。

行き当たりバッタリ感をかもしつつ進めますので、  
お付き合いください。

## 着手 1

「はい！ おはようございます！」

『おはよ～～～つす』x『うー』

村の西側のはずれで、自分たちのチームは荒地を畑にするための  
水利工事をしようとして朝の顔合わせの最中である。

.....

あの日、車の運転席でベル〇ー片手に呆然としてしていると「コッ！  
コッ！」と硬いものでたたいているような音がした。

ふぁ？と前を見ると箒らしきものを持ったどう見ても巫女さんら  
しき服装の少女？が、箒の柄の方であろう部分でフロントガラスを  
突付けていた。・・・必死の形相で。

後で聞いたら、閉じ込められているのでは？と感じたらしい。確  
かに「目を見開いて固まっていたよ？こんな風に」と当時のまねを  
して教えてくれた。・・・舌は出してなかっただろうに。

会話が通じなくて、箒らしきものでけん制されながらも、ゼスチ  
ヤーで何とか害意がないことを判ってもらって少女が暮らしている  
という村に連れて行ってもらった。

村の中央広場と思える場所で「ここでまって」の身振りを理解  
したので、周りの人の訝しげな視線に耐えながらもキョロキョロし  
ながら少しの間辺りを観察していた。

(あゝ なんか中世っぽい雰囲気。建物は石積だけではなく木材も柱で使っているのか。)

(雨でも降った後かな？所々ぬかるんでるや)

(なんか・・・ちょっと・・・におう?)

などと考え無しに見回していると村長らしきチヨット立派な人と、眉毛が(わしが長老じゃ!)と主張しているであろう持ち主が、案内してくれた女の子と一緒に現れた。

.....

「それではこれからの工事概要と今日の作業の手順を確認します」

「昨日、川の流れる方向を村長と検討して決定しました。取り入れ口の予定地より等間隔で杭が打つてあります。それに沿って小川を作つて水を引く工事になります。」

「はじめにゴーレム班で大まかに掘り下げを行います。そのとき、掘り過ぎに注意してくださいね」

「深さは大体、皆さんの膝より少し上が出る程度でお願いします。」

「オー」「大丈夫?」「オー」「ホントかね」

(寡黙すぎる・・・)

「それと今のうちに石材の加工をドワーフ班にお願いします。」

.....

.....そう、ここは異世界らしい・・・それもファンタジー色濃い目の・・・

今、目の前に居るのが・・・ねえ!?

だって、ゴーレムですよ？身の丈が3〜4メートルもある、岩の色や、チヨット黒っぽい色の濃い体のものや、赤茶の色をしているんですよ!？会話は「ウー」とか「オー」とかカタコトです。

ドワーフですって!何かのゲームで見たことのある風貌ですよ？背丈はチヨット低めですけど・・・筋肉がすごい!何で少し前傾姿勢なんだろう?それで石を加工する大槌なんかを持ってたらモロ、ドワーフ!って、これこそがドワーフって感じです。

それと、獣人もいるんだって、今、自分たちのチームには居ないけど、隣の村や町などには居るらしい。犬や猫といった動物っぽいのも居るらしいけど・・・区別はつくよね?

あとは、人間。何でも全体の3〜4割の勢力?らしい。

ほかにも多種多様な種類の生き物が居るらしいけど会話が成り立つのは少ないそうだ。

ファンタジーといえばお約束!魔法も存在する。この世界の住人は多少なりとも魔力を持っているそうで、その量は個人差があり、多く持っているものは例外なく都市部や市街地に出て行くそうだ。

で、農村部に居るのはほんの少しの魔力しか持ってない者が多い  
ということだ。

初めの内は、お互い話していることが通じないのでゼスチャーで  
意思の疎通を図っていたが、そこはファンタジー。魔法が存在する  
のだ。村長らしき人（やつぱり村長でした）が持ってきたネックレ  
スをするとあら不思議？話の内容が理解できた。マジックアイテム  
？なんだろう。  
べんりだ。

-  
-  
-  
-  
-

で、作業手順を説明後、

元の世界でも使っていた、黄色い色に緑色の十字が、ビシッと  
はいつたヘルメットを被り

今日、一日一緒に作業をするであろう作業員？たちの顔を見回して

「安全第一」をどう説明しようか等と考えつつあご紐をぎゅっと  
締めた。

## 着手 1 (後書き)

読むに耐えられる文章なのだろうか・・・

評価や感想をもらえればアリガタイデス。

## 接触 1 (前書き)

下書きも何も無く、設定のみで書いてます。  
進行は思い付きです。

辻褄合わせれるかどうか。不安いっぱいです。



接触 1

(なんで〜!・・・なんで〜!)

っん!っん!

(なにこれ!・・・なにこれっ!)

こん!こん!

(なんでこんなものが突然あるのよ)

こんこん!こんこん!

(!・・・中に人がいるみたいっ  
たいへん!) 目を見開いて苦しそう?

どんどんっ!どんどんっ!・・・どん!

・・・あっ 動いた!?

あせったように周囲をキョロキョロ見回している・・・ あ、  
私と目が合った。

がちちゃっ

・・・出てきた。 閉じ込められていたんじゃないんだ。  
で、なに?

(なにあれ・・・ひと?・・・なのかな?)

中から出てきたのは、変な格好の人族の男性みたい。見たことのない服装をしている。

髪の毛と瞳の色は黒。しかし来ている服は上着もズボンも薄い空の色、それに花の色みたいな黄色いベスト風の鎧のような防具?を着けている。

(見ていると目がチカチカしてくるよう)

足元は黒くて膝下までのブーツをはいているみたい。でも材質はどう見ても皮じゃないみたい。あるはずの継ぎ目がなくてつやつやしてて、すごく軟らかくて、歩かたびにぐにゃぐにゃ曲がるの。

歩かたびに「ぽこ・ぽこ」とかるく音がするのも変、皮や他の履物ではまずそんな音は出ないはずだから。

少し離れて筭を構えながらじつと観察していると何か話しかけた様な雰囲気でごつちを見ている。

「sumimase...nnn hashiwakarima  
su?」

何か話しかけているけど私には何を言っているのかさっぱり判らない。どうやらここら辺の言葉じゃ無いみたい。

「貴方は何者?どうしてここに?」私からも声をかけてみるけれども通じないようで、困ったような顔をして私の口元を見ている。

「k o m a t t a n a      t u u j i t e n a i y o u d a s h  
i k o k o d o k o d a r o u」

黒髪のかきながら何かをつぶやいたあと、ふと、思い出したように急に胸の辺りを探り始めた。

その時、首から提げていたペンダントかな？掌ほどもある（黒曜石で出来ているのかしら？）黒くて艶々した物体を胸から取出し、両手で持って凝視している。

暫らく、そのままなにやらゴソゴソしていたけれども、急に一声、何か叫んだ後その場にしゃがみこんだ。

「a a a a a a ! ! a n - t e n a      t a t t e n e . . !」

その変な格好の人？は地面に両手、両膝をついてうなだれていた。首からは先ほど取り出した黒い物体の首飾りがぶら下がっていた。

私は、どうしたらいいか途方にくれて、何とか身振り手振りで意思の疎通が出来ないか試そうかと

うなだれているその人の肩に恐る恐る、手を伸ばした。

## 接触 1 (後書き)

腕が無いもので複数登場させられません。

読んでいただけたのなら有り難いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1127z/>

---

スコップ片手に異世界

2011年12月18日01時48分発行